

にしづかこふん  
11 西塚古墳

所在地：若狭町脇袋

調査原因：史跡整備にともなう範囲確認調査

調査期間：令和3年6月～8月

調査主体：若狭町歴史文化課

調査面積：150 m<sup>2</sup>

時代：古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

**遺跡について** 西塚古墳は、古墳時代中期後半に築かれた全長 74mの前方後円墳です。脇袋には、西塚古墳以外にも上ノ塚古墳・中塚古墳・糠塚古墳<sup>ぬかづか</sup>の前方後円墳が築かれており、これらの古墳は古墳時代中期における首長墓と考えられています。また、脇袋に所在する4基を総称して脇袋古墳群と呼んでいます。

西塚古墳の史跡整備のために、昨年度から継続して範囲確認調査を実施しました。今回の調査からは、西側のくびれ部付近から木製品が出土し、水を制御するために設置されたと考えられる堰状遺構<sup>せき</sup>の一部を検出しました。

**主な遺構** 前方部南東隅から堰状遺構の一部を検出しました。堰状遺構は周濠底に丸太材を設置したのちに、その丸太材を軸として地山由来の粘土を用いて土手状に覆って作られています。その後、堰状遺構の高さに揃えながら、基底石を設置して葺石<sup>ふきいし</sup>を葺き始めています。

脇袋の地形は、東側から西側に傾斜する緩斜面であり、周濠内に水を湛えさせるためには、水を堰き止める必要があります。この遺構は、周濠内で水を制御していたことを裏付ける遺構と考えられます。

**主な遺物** 西側のくびれ部付近から木製品が集中して出土しました。古墳築造後に執り行われた葬送儀礼用の木製品と考えられ、儀礼後に周濠底に捨て置かれた状態で出土したと考えられます。鋤・板状木製品・棒状木製品の計9点を確認しています。これらの木製品の発見は、若狭地方の首長墓における葬送儀礼の一端を窺い知ることができる貴重な例です。

(近藤 匠)



西塚古墳 全景（上が北）



堰状遺構（②調査区）



埴輪出土状況（③調査区）



木製品出土状況（③調査区）